

# 切手偏見



11月7日に慶應義塾創立150周年記念切手が発行される。切手を集める友人諸氏の喜びは大きいことであろう。また、過去に早稲田の大学の創立100周年切手の発行に努力された方々の複雑な心境も察せられる。その気持ちを整理し、今後の切手発行を考える糧になればと考

え、今回の慶應義塾記念切手の発行を材料に記念切手の発行の一側面を整理してみた。

今回の記念切手を考えるとき下記3点から検討してみる必要がある。

1. 慶應義塾大学創立の我が国における意義
2. 150周年という年数の意義

そしてわが母校の切手の未発行を思う時、政治家でなく、文化人として位置づけられる福沢諭吉という人物の存在を無視してこの切手は考えられないのではと、思い、

3. 創立者 福沢諭吉の存在

まず、大学創立の意味であるが、慶応大学の創立は我が国で最初の高等教育機関としての創立である。東京大学よりも19年、わが母校よりも24年先んじての創立である。高等教育機関創始記念の意味を持つ発行とも理解していくべき



であろう。因みに最初の大学関係の切手が東京大学創立75周年切手であり、それ以後は慶応大学の2種の発行である。また、高等教育関係としては2000年に発行された私立女子高等教育創始100周年記念切手が発行されてる。こ

の切手、大学創設者肖像とシンボルの花が描かれている。女子英学塾(現津田塾大学 津田梅子 シンボルの花:梅)、東京女医学校(現東京女子医科大学 吉岡彌生 シンボルの花:カトレア)、日本女子大学校(現日本女子大学 成瀬仁蔵 シンボルの花:桜と楓)の3大学が切手と取り上げられたと解釈できよう。



この他には大学の建物がふるさと切手に描かれている京都大学、早稲田大学があるのみで創立者が切手に描かれているものが数種ある。

次に、何周年を記念して切手が発行されてきたかという年数の問題を検討して

みる。時代的な背景が大きく時の政府が意図するものは年数が無くとも、根拠が曖昧でも発行されており1~2600年という幅を持つものであるが、その状態は右表のようになる。やはり50年、100年という判り易い年数での発行が多くなっているが戦後の一定時期までは75年で発行されるものが多くなっている。今回の慶応大学切手の150年記念は現在までに前島密生誕150年、日米交流150年の2件の発行にとどまっているが100年での発行件数の多いことを考慮すると、今後どの程度150周年記念切手が発行されるか興味深い。慶應大学100周年発行時に近いものを拾い出すと赤十字関係は定番の切手として発行されていくであろうが、他のものがどのように選別されていくかを見れば今後の記念切手の発行のおおよそ想像がつくであろう。参考までに年数に関係する切手を右表にしたので参考にしてください。



年	件数	ふるさと
1	1	
10	9	
20	6	
25	6	
30	8	
35	1	
40	1	
45	1	
50	61	(2)
60	1	
70	2	
75	14	
80	2	
90	2	
100	78	(4)
110	1	
125	1	(1)
150	2	
200	1	
300	2	(2)
350	1	
400	7	(3)
450	1	
500	1	
800	1	
1100	1	
1200	1	
1250	1	
1300	1	
2600	1	

件名	年	発行年
大東亜戦争 1年	1	1942
明治神宮鎮座 10年	10	1930
満洲建国 10年	10	1942
アルコール専売制度 10年	10	1948
人権宣言 10年	10	1958
南極条約 10年	10	1971
沖縄復帰 10年	10	1982
日中国交 10年	10	1982
日中平和友好条約 10年	10	1988
天皇在位 10年	10	2000
神宮式年遷宮	20	1929
ユネスコ 20年	20	1966
日韓国交 20年	20	1985
<b>青年海外協力隊 20年</b>	<b>20</b>	<b>1985</b>
沖縄復帰 20年	20	1992
日中国交正常化 20年	20	1992
競馬法公布 25年	25	1948
放送 25年	25	1950
国際放送 25年	25	1960
国際連合 25年	25	1970
婦人参政 25年	25	1971
沖縄復帰 25年	25	1997
関東局始政 30年	30	1936
行政相談委員制度 30年	30	1991
<b>青年海外協力隊創設 30年</b>	<b>30</b>	<b>1995</b>
日韓国交正常化 30年	30	1995
日本モンゴル外交関係 30年	30	2002
ハンガリー国交 30年	30	2002
沖縄復帰 30年	30	2002
日中国交正常化 30年	30	2002
世界人権宣言 35年	35	1983
世界人権宣言 40年	40	1988
世界人権宣言 45年	45	1993
郵便創始 50年	50	1921
万国郵便連合加盟 50年	50	1927
教育勅諭 50年	50	1940
ブラジル移住 50年	50	1958
航空 50年	50	1960
南極探検 50年	50	1960
簡易保険 50年	50	1966
民生委員制度 50年	50	1967
ILO50年	50	1969
ガールスカウト 50年	50	1970
講停制度 50年	50	1971
ボーイスカウト 50年	50	1972
放送 50年	50	1975
健康保険 50年	50	1976
アマチュア無線 50年	50	1977
地下鉄 50年	50	1977
ラジオ体操 50年	50	1978
練習船日本丸・海王丸 50年	50	1980
自然公園 50年	50	1981
日本プロ野球 50年	50	1984
国際放送 50年	50	1985
湯川秀樹中間子理論発表 50年	50	1985
著作権制度 50年	50	1989
デジタルTV利用 50年	50	1990
税理士制度 50年	50	1992
平和 50年(広島・長崎平和祈念)	50	1995
国連・ユネスコ 50年	50	1995
労働委員制度 50年	50	1996
戦後 50年メモリアル	50	1996
婦人参政権 50年	50	1996
ユニセフ 50年	50	1996
共同募金運動 50年	50	1996
最高裁判所 50年	50	1997
参議院 50年	50	1997
高校定時制通信制教育 50年	50	1997
労働基準法制度 50年	50	1997
農業災害補償 50年	50	1997
沖縄切手 50年 *	50	1998
世界人権宣言 50年	50	1998
新年賀切手発行 50年	50	1998
土地改良制度 50年	50	1999

家庭裁判所 50年	50	1999
更生保護制度施行 50年	50	1999
岩宿遺跡発掘 50年 *	50	1999
日本プロ野球セパ誕生 50年	50	1999
日本学術会議 50年	50	2000
行政書士制度 50年	50	2001
平和条約 50年	50	2001
法律扶助制度 50年	50	2002
日本ライオンズ 50年	50	2002
インド国交 50年	50	2002
スリランカ国交 50年	50	2002
パキスタン国交 50年	50	2002
日米フルブライト交流 50年	50	2002
民間航空再開 50年	50	2002
テレビ 50年	50	2003
奄美群島復帰 50年	50	2003
中央競馬 50年	50	2004
現行警察法 50年	50	2004
国際交通週間(国連加盟) 50年	50	2006
南極地域観測事業開始 50年	50	2007
天皇在位 60年	60	1986
鉄道 70年	70	1942
議会開設 70年	70	1960
靖国神社 75年	75	1944
郵便開始 75年 戦後初の記念切手	75	1946
鉄道 75年	75	1947
中央気象台 75年	75	1949
UPU加入 75年	75	1952
日赤創立 75年	75	1952
東京大学 75年	75	1952
電灯 75年	75	1953
<b>東京文台 75年</b>	75	1953
国際通信連合加盟 75年	75	1954
ハワイ移住 75年	75	1960
標準時 75年	75	1961
国民参政 75年	75	1965
電話創業 75年	75	1965
郵便開始 80年	80	1951
議会開設 80年	80	1970
郵便 90年	90	1961
議会開設 90年	90	1980
北斎 100年★戦後 150年文化人切手発行 1999年	100	1948
製鉄 100年 ★150周年発行決定	100	1957
日本開港 100年	100	1958
<b>慶応義塾 100年</b>	<b>100</b>	<b>1958</b>
赤十字思想 100年	100	1959
松蔭 100年/PTA大会	100	1959
日米友好 100年	100	1960
赤十字 100年	100	1963
国際電気通信連合 100年	100	1965
北海道 100年	100	1968
<b>明治 100年</b>	<b>100</b>	<b>1968</b>
灯台 100年	100	1968
電信創業 100年	100	1970
郵便創業 100年	100	1971
戸籍制度 100年	100	1971
政府印刷事業 100年	100	1971
鉄道 100年	100	1972
学制 100年	100	1972
税関 100年	100	1972
おまわりさん誕生 100年	100	1974
UPU100年	100	1974
リンゴ 100年	100	1975
郵便貯金 100年	100	1975
幼稚園 100年	100	1976
UPU加盟 100年	100	1977
国立科学博物館 100年	100	1977
商工会議所 100年	100	1978
証券取引所 100年	100	1978
<b>東京文台 100年</b>	<b>100</b>	<b>1978</b>
特殊教育 100年	100	1979
医療文化 100年	100	1979
検疫制度 100年	100	1979

国際電気通信連合加盟 100年	100	1979
消防 100年	100	1980
農林水産振興 100年	100	1981
砂防 100年	100	1981
動物園 100年	100	1982
中央銀行制度 100年	100	1982
官報 100年	100	1983
天気予報 100年	100	1984
産業教育 100年	100	1984
工業所有権 100年	100	1985
内閣制度 100年	100	1985
建築学 100年	100	1986
日本薬局方 100年	100	1986
日本標準時制定 100年	100	1986
登記制度 100年	100	1987
海洋生物学会 100年	100	1987
木曾三川近代治水 100年	100	1987
日タイ友好 100年	100	1987
近代水道 100年	100	1987
日墨(対ソ)条約 100年	100	1988
日本トルコ友好 100年	100	1990
裁判所制度 100年	100	1990
点字制定 100年	100	1990
議会開設 100年	100	1990
電話創業 100年	100	1990
日本水準原点 100年	100	1991
農業研究 100年	100	1993
日本ブラジル友好 100年	100	1995
近代河川制度 100年	100	1996
ヌキシコ移住 100年	100	1997
日本チリ友好 100年	100	1997
日本アルゼンチン友好 100年	100	1998
日本人ペルー移住 100年	100	1999
日本ギリシャ友好 100年	100	1999
日本人ボリビア移住 100年	100	1999
弁理士制度 100年	100	1999
民法・商法施行 100年	100	1999
著作権制度 100年	100	1999
清水港開港 100年*	100	1999
<b>私立女子高等教育創始 100年</b>	<b>100</b>	<b>2000</b>
切手趣味週間(赤いポスト) 100年	100	2001
みずゝとふるさと長門 *	100	2003
山を愛した文学者 *	100	2003
映画監督青春の地 *	100	2003
国際ロータリー 100年	100	2005
日本文学会創立 100年	100	2008
議会開設 110年	110	2000
沖縄郵政創業 125年 *	125	1999
<b>前島密生誕 150年</b>	<b>150</b>	<b>1985</b>
<b>日米交流 150年</b>	<b>150</b>	<b>2004</b>
シーボルト生誕 200年	200	1996
後楽園築庭 300年 *	300	2000
俳句のまち *	300	2003
名古屋 350年	350	1959
遣欧少年使節 400年	400	1982
日蘭交流 400年	400	2000
仙台開府四百年 *	400	2001
歌舞伎発祥 400年	400	2003
江戸開府 400年	400	2003
萩開府 400年(山口県) *	400	2004
熊本城築城 400年祭 *	400	2007
日本ポルトガル友好 450年	450	1993
東京開都 500年	500	1956
日本茶 800年	800	1991
古今和歌集 1100・新古今 900年	1100	2005
平安建都 1200年	1200	1994
奈良遷都 1250年	1250	1960
藤原京創都 1300年	1300	1995
紀元 2600年	2600	1940

\*ふるさと切手を示す。  
 明治維新と戦後に大きな社会変化、発展があったことが切手の発行からも示されている。憲法 50 周年記念切手が無いのは政治色の有無、どちらか？

件名	件数
議会開設記念	5
郵便創業記念	5
沖繩復帰記念	4
世界人権宣言記念	4
鉄道記念	3
日中国交正常化記念	3
UPU 加入記念	2
国際通信連合加盟記念	2
放送開始記念	2
国際放送開始記念	2
青年海外協力隊創設記念	2
電話創業記念	2
東京天文台記念	2
日韓国交記念	2
婦人参政記念	2

このような年数をとらえての切手発行状況の中で、今回の慶応大学 150 周年切手の持ついっそう重要な意義は 2 回目の発行であるという点であろう。約 220 件の発行されてきたものの中で複数回発行されている内容を整理したのが左表であり、15 件にとどまっている。しかもその内容を見ると全てが官公、国家的な内容であり、民間に関わるものは皆無である。あえて、慶応大学の立場に近いものを考慮するならば、東京天文台創立、青年海外協力隊創設記念の切手をあげることができるかという感である。この点からも今回の慶応大学創立 150 周年記念切手発行は郵便事業が民間になったことを大きく考慮しても、非常に画期的なことであり、喜ばしいことである。

切手に描かれる人物について考えてみる。普通



二度、発行された東京天文台青年海外協力隊の切手



切手を除き、個人を特定できる切手(集合画面含む)を拾い出すと、約 200 枚の切手に 230 名近い方が描かれている。これら特定できた方々の立場、活動分野で分類してみたのが右表である(20 世紀シリーズ等を他の切手と同等に扱えるのには議論があろうし、分類の評価も検討の余地がある)。

また、複数枚の切手に描かれた個人を一覧表にしたのが右の右表である。

大きくスポーツ芸能、文学を含めた学術文化の分野に属する人物で半数を占めるのに対して芸術分野の人物が少ないのは、その作品をもって代え

るという意味合いがあるのであろうか。また。映画演劇、芸能分野もその出演映画、演技場面が主対象と考えると、切手に人物として描かれる対象は福沢諭吉のような学術文化面に貢献した人物に限られている。

次に政治家として 9 名が特定できているが、このうち、人物として描かれているのは佐野常民、尾崎行雄のみであり、他は講和条約の吉田茂、池田勇人等と、ミズリー艦上の重光葵等で記録写真から特定できる人物であり、戦前はともかく戦後は切手に極力政治色は排除されている様である。



わが母校から世間が連想するのは「都の西北」、大隈講堂 → 大隈重信となるであろう。大隈重信は政治家として位置づけざるえない。現に、大学名の入った水鉢、鳥居と大正時代の政党、憲政会の名が彫られた燈籠が墓(125 周年で講堂だけでなくこちらにも大幅に改装されたようで)に据えられている。この

ことから早稲田大学関係の記念切手発行には創立年数以外にかなり高いハードルが存在したし、今後もしていくかと考える。以上、この慶応大学創立 150 周年切手発行を機に過去の記念切手発行を考えてみた。郵便、通信、放送関連と官業に偏って、我田引水、手前味噌的発行経過であったことは否めないようである。官から民に郵便事業会社になって、記念切手の発行がどのように変わるのか期待したい。(編集子)

分野	人数
映画演劇	38
文学関係	38
学術、文化	37
スポーツ	23
伝統芸能	22
郵政	15
芸術	11
政治	9
武士・軍人	7
歌謡	5
音楽	4
皇室	4
実業家	4
映画監督	2
探検家	2
外交官	1
総計	223

氏名	合計
前島密	11
キヨソネ	4
皇太子、妃**	4
正岡子規*	3
美空ひばり	3
三船敏郎	2
渥美清	2
華岡青洲	2
佐野常民	2
手塚治虫	2
森鷗外	2
石原裕次郎	2
川端康成	2
長岡半太郎	2
湯川秀樹	2
梅謙次郎	2
白瀬中尉	2
福沢諭吉	2
北白川宮	2
野口英世	2
有栖川宮	2
力道山	2

\*\* 2 代に渡る皇太子、妃

\* ふるさと切手を含む